

寺山和雄, 堀尾重治(著)

図で説く整形外科疾患 外来診療のヒント [ハイブリッド CD- ROM 付]

山内裕雄
順天堂大学名誉教授

近年インフォームドコンセントの重要性が叫ばれている。そんな外来語を持ち出さなくても、むかしから患者さんへの説明は医療の一部であったし、よい説明は百薬にも勝るものである。しかし実際には時間をかけて説明してもなかなかわかってもらえず、一方通行になっていることが少なくない。患者さんが理解しやすい説明法にわれわれはもっと習熟すべきであろう。

そのよい手段として図示がある。いろいろな学会から主要疾患の説明パンフレットが出ているし、私も以前ある製薬会社の依頼を受けて Patient Education Guide なる図譜・CD-ROM の作製に協力したことがある。

本書はまさにそれをめざして書き下ろされたものである。寺山氏は定年後も臨床と教育に情熱を燃やされており、共著者の堀尾氏は九州厚生年金病院放射線室技師長をされていた方で、自筆の挿絵を多数鏤めた『骨・関節 X 線写真の撮りかたと見かた』(医学書院)というすばらしい本を出されている。今回の企画には寺山氏の要望で最初から参加、すばらしい図を書き下ろされた、まさしく日本版 Dr. Netter であろう。本書にはウィンドウズ・マック両用の CD-ROM がついており、診察室でモニター表示をしたり、その場でプリントアウトして患者さんに手渡せるようにも配慮され

ている。

本書の根底には寺山氏が永年育まれてきた、そしていつしか整形外科のトップセラー教科書となった『標準整形外科学』(医学書院)がある。その別冊付録「主訴、主症状から想定すべき疾患一覧表」は氏ご自慢の作で、本書でも踏襲され骨格となっている。いわばその基本メニューに沿って寺山シェフが腕をふるい、堀尾コ・シェフが彩りを添えたといってもいいだろう。コース値段は税込み 7,140 円といささかお高い。私はゆつくり味わせていただいた。

まず三つ星は彩り、すなわち挿絵に差し上げよう。単なるイラストレータではなく内容をよくわきまえた画筆さばき、まことにお見事。ついで本文。さすがに永年臨床・教育に携わってこられた老練名誉教授である。ずばりポイントをついている。なかには「そこまで言っていいいの」という記載もあるが、それこそ本書の特色でもあろう。特にご専門である股関節疾患の章には間然たところなし、対象は整形外科臨床医であるが、ときに患者さんにも読んでもらいたいという気持ちから「脊椎の前方の円板状の骨を椎体という」といったあらずがなの説明もあるが、わかってほしいという意欲のほとばしりか。手根管が 3 カ所に反復して出てきたり、初版にありがちな瑕疵も少々あるが、本書の価値を決して損なうものではない。

この上等なコースにどんなワインを合わせるかは皆さまのお愉しみ。整形外科街にもしゃれたお店ができたものである。

●B5 判 200 頁

定価 7,140 円(本体 6,800 円+税 5%)

2005 年 医学書院・刊